

明石工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	アクティブラーニング入門	
科目基礎情報							
科目番号	0010		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	電気情報工学科		対象学年		1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材							
担当教員	佐伯 亮太						
到達目標							
■課題を発見し、定義する方法を身につける □グループワークの中で （評価項目1）グループワークにおいて、課題を発見するための方法を説明することができる。 （評価項目2）グループワークにおいて、リーダー、ファシリテーター、メンバーとして振る舞うことができる。 □各学習活動の中で （評価項目3）異なるタイプの学習活動において、自らをアクティブにする方法について説明することができる。 （評価項目4）異なるタイプの学習活動において、自らをアクティブにすることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	理想的な到達レベルの目安 (良)	標準的な到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安		
評価項目1		2つ以上の具体的な場面を設定でき、その中で課題発見・定義を促すための3つ以上の役割について説明することができる。	2つ以上の具体的な場面を設定でき、その中で課題発見・定義を促すための3つの役割について説明することができる。	1つの具体的な場面を設定でき、その中で課題発見・定義を促すための3つの役割について説明することができる。	1つの具体的な場面を設定できるが、その中で課題発見・定義を促すための役割について説明できない。あるいは、課題発見・定義を促すための役割を1つ挙げることができるが、具体的な場面が設定できない。		
評価項目2		2つ以上の具体的な場面の中で、課題発見・定義を促すために、異なる2つ以上の役割において貢献することができる。	2つ以上の具体的な場面の中で、課題発見・定義を促すために、異なる2つの役割において貢献することができる。	1つの具体的な場面の中で、課題発見・定義を促すために、1つの役割において貢献することができる。	課題発見・定義を促すために貢献できない。		
評価項目3		2つ以上の具体的な場면을挙げ、その中で自らをアクティブにするための3つ以上の方法について説明することができる。	2つ以上の具体的な場면을挙げ、その中で自らをアクティブにするための2つの方法について説明することができる。	1つの具体的な場면을挙げ、その中で自らをアクティブにするための1つの方法について説明することができる。	1つの具体的な場면을挙げることができるが、その中で自らをアクティブにするための方法について説明できない。あるいは、自らをアクティブにするための方法を1つ挙げることができるが、具体的な場面が挙げられない。		
評価項目4		2つ以上の具体的な場面の中で、3つ以上の方法において自らをアクティブにすることができる。	2つ以上の具体的な場面の中で、2つの方法において自らをアクティブにすることができる。	1つの具体的な場面の中で、1つの方法において自らをアクティブにすることができる。	自らをアクティブにすることができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (E)							
教育方法等							
概要	「アクティブラーニング入門」は、課題を発見し、定義するための方法について学ぶ科目です。課題発見は「どうなっているのかな?」「なぜだろう?」と問いかけることから始まります。このような疑問を持つためには「あたりまえ」を問い返すことが重要です。ではどうすれば「あたりまえ」が見直せるでしょうか。そのための重要な方法の一つに「対話」があります。自分一人では気がつかないことも、違う見方をする他人と話し合うことによって気づくことができます。しかしもちろん、漫然と話し合っているだけでは気づきは生まれません。気づき＝課題の素を生むための話し合いには方法があります。その方法を身につけていくのがこの授業です。そしてさらに、見つけた気づきをカタチにしていくためにも方法があります。そこでこの科目では、グループでの話し合いに焦点をあて、これらの方法を体験しながら、身につけ、課題発見・定義につなげていきます。						
授業の進め方・方法	いくつかの方法を体験し、それを意識化する（言語化する）という方法で学んでいきます。例えば、グループでの話し合いの中で、リーダーやファシリテーターの役割を担ってみる、メンバーとしてグループに貢献するなどを行い、実際にどういう風に振る舞ったのかを言葉にしていきます。また、グループでの話し合いだけでなく、ペアでの話し合い、体を動かす、講義を聞くなど、よく起こるいくつかのタイプの活動の中で自らをアクティブにする方法を体験していきます。						
注意点	この授業に求められるのは、授業への積極的な参加と、その時点で自らが持っている力を素直に振り返る態度です。また、他の授業への参加態度を振り返ったり、課題図書を読んだりなどの授業時間外の活動（宿題）に取り組む必要もあります。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	これまでのグループ活動を振り返る		これまでに行ってきたグループ活動の特徴を説明することができる		
		2週	課題を見つけるグループ活動①－1 リーダーの役割		リーダーの役割を説明できる		
		3週	課題を見つけるグループ活動①－2 リーダーの役割		リーダーとして振る舞える		
		4週	課題を見つけるグループ活動②－1 ファシリテーターの役割		ファシリテーターの役割を説明できる		
		5週	課題を見つけるグループ活動②－2 ファシリテーターの役割		ファシリテーターとして振る舞える		
		6週	課題を見つけるグループ活動③－1 メンバーの役割		活動に貢献できるメンバーの役割を説明できる		

		7週	課題を見つけるグループ活動③－２ メンバーの役割	活動に貢献できるメンバーとして振る舞える
		8週	中間試験	それぞれの役割の特徴を説明できる／これまでに行ってきたグループワークとの違いを説明できる
	2ndQ	9週	これまでの講義受講時の振る舞いを振り返る	講義受講時にこれまでに自らがとってきた活動の特徴を説明できる
		10週	講義の中で自らをアクティブにする方法① 講義中の活動	講義受講場面において、自らをアクティブにするための方法を実践できる
		11週	講義の中で自らをアクティブにする方法② 事前活動	講義受講中に自らをアクティブにするために事前にしておくことを挙げ、実践できる
		12週	講義の中で自らをアクティブにする方法③ 事後活動	講義受講中に自らをアクティブにするために事後にしておくことを挙げ、実践できる
		13週	課題発見・課題定義の練習①	練習場面において自分に適した役割・そうでない役割を挙げることができる／自分の役割で機能的に振る舞える
		14週	課題発見・課題定義の練習②	練習場面において自らをアクティブにできる
		15週	課題発見・課題定義の練習③	練習場面においてこれまでに学んだことを総合して適用できる
		16週	期末試験	それぞれの役割の特徴を具体的な場面を設定した上で説明できる／課題発見・課題定義の場面において自分に適した役割とその理由について説明できる

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	専門的能力 の実質化	PBL教育	PBL教育	工学が関わっている数々の事象について、自らの専門知識を駆使して、情報を収集することができる。	2	
				集められた情報をもとに、状況を適確に分析することができる。	2	
				与えられた目標を達成するための解決方法を考えることができる。	2	
				状況分析の結果、問題（課題）を明確化することができる。	2	
				各種の発想法や計画立案手法を用いると、課題解決の際、効率的、合理的にプロジェクトを進めることができることを知っている。	2	
				各種の発想法、計画立案手法を用い、より効率的、合理的にプロジェクトを進めることができる。	2	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	2	
				相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	2	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	2	
				集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	2	
				日常生活の時間管理、健康管理、金銭管理などができる。常に良い状態を維持するための努力を怠らない。	2	
				ストレスやプレッシャーに対し、自分自身をよく知り、解決を試みる行動をとることができる。日常生活の管理ができるとともに、目標達成のために対処することができる。	2	
				学生であっても社会全体を構成している一員としての意識を持って、行動することができる。	2	
				市民として社会の一員であることを理解し、社会に大きなマイナス影響を及ぼす行為を戒める。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。	2	
				チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	2	
				組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	2	

評価割合

	試験	パフォーマンス	相互評価	フォートフォリオ	合計
総合評価割合	30	30	20	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	30	30	20	20	100